

2026年1月29日

SAM日本チャプター 会員各位

SAM日本チャプター
会長 牧野克則

2026年度総会・年次大会の開催について(ご案内)

拝啓 厳寒の候、会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、2026年度SAM日本チャプター総会と年次大会を下記のとおり開催いたします。

全会員が交流を図る機会です。ご多忙とは存じますが、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

なお、出欠の有無については、2月9日(月)までに各支部の事務局にお知らせください。

欠席される場合は、添付の委任状を必ずご提出ください[FAXでも結構です]。

敬具

記

[日 時] 2026年2月18日(水)13:30~18:00

I. 総 会 13:30~14:30

II. 年次大会 14:30~16:00

III. 懇 親 会 16:00~18:00

[会 場] 日本外国特派員協会(FCCJ) 多目的ルーム

所在地: 東京都 千代田区 丸の内 3-2-3 丸の内二重橋ビル 5 階

※詳細は<https://www.fccj.or.jp/article/inquiries-access>からご覧ください。

[参加方法] 1. 名古屋・大阪両支部からご参加の新幹線代を SAM 本部が負担します。

2. オンライン参加も可能です。Zoom の URL は下記の通りです。

<https://us06web.zoom.us/j/88326759056?pwd=BsO3fn9skh3j2jf2sjbwIaJvIa8IGd.1>

ミーティング ID: 883 2675 9056 パスコード: 932048

[参 加 費] 5千円（懇親会参加の方のみ。当日、会場で申し受けます。）

[基調講演] **私の見た独裁者たち～独裁と民主主義～**

【要 旨】 ・世界は今や独裁・権威主義体制が隆盛し、「独裁の世紀」と呼びたいほどである。新年早々、米国はベネズエラを攻撃し独裁者マドゥロ大統領を逮捕したが、当のトランプ米大統領も独裁化しつつある。
・独裁の跋扈は何を意味するのだろうか。独裁の「魅力」の前に、民主主義は力尽き、死んでしまったのだろうか。ノリエガやカストロ、フジモリ、スハルト、イメルダ、朴槿恵など独裁者や独裁的指導者を少なからず取材して来た。これらの経験を振り返り、独裁者の正体、その功罪などに触れながら独裁者と民主主義について考えるとともに、今後の世界を展望したい。

【講 師】千野 境子(ちの けいこ)様 ジャーナリスト、産経新聞客員論説委員

【略 歴】 早稲田大学第1文学部ロシア文学専修卒業。1967年、産経新聞東京本社編集局入社。夕刊フジ報道部、本紙外信部。1987年~88年にマニラ特派員、90年7月~93年2月までニューヨーク支局長。帰国後、全国紙初の女性外信部長となり95年3月まで在任。96年2月、再び報道の現場に復帰し、98年7月までシンガポール支局長兼論説委員。この間、東南アジアを中心とする報道で1997年度ボーン・上田国際記念記者賞を受賞。その後、2005年4月~08年6月まで全国紙初の女性論説委員長。正論・論説担当取締役も兼ねた。2012年に退社後はフリーランスで執筆活動を続けている。

【著 書】『インドネシア 9・30 クーデターの謎を解く』(草思社)『戦後国際秩序の終り』(連合出版)『なぜ独裁はなくならないのか』(国土社)『江戸のジャーナリスト葛飾北斎』(同)など。近著に『奇才・勝田重太郎の生涯—近代日本のメディアを駆け抜けた男』(論創社)

以上